

実施期間・参加人数・滞在都市・現地交流校について

平成27年7月21日～8月3日までの14日間、1年生英語科35名がオーストラリアのブリスベン郊外イプスウィッチにホームステイしながら、ウェストモートンアングリカンカレッジと交流した。

実施概要について

今回の研修では、ホストスクールでの英語の授業を主な活動として充実した語学研修とすることができた。平日は午前と午後に分けて2クラス編成で英語のレッスンを受けたり、ホストスクール生徒と一緒に交流授業に参加する等の活動を行った。

また、現地の人々と交流を深めたり、施設見学を通してオーストラリアの文化や習慣に触れる機会も多く得ることができた。ブリスベン市内での施設見学では特にアボリジニの文化や歴史について学び、それを生かしてブーメラン作りなどの活動を行った。またゴールドコースト方面をエクスカーションとして訪れ、豊かな自然環境と日本とは異なる特殊な生態系に触れる体験学習をすることができた。

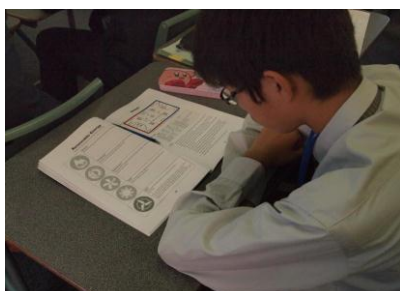


福島現状発信や現地におけるエネルギー学習について

ホストスクール内の授業において、日本文化や福島の紹介を交えながら、東日本大震災とその後の復興状況に関するプレゼンテーションを行った。日本文化では4班16名・東日本大震災でも4班16名の生徒達がプロジェクターなどを使用して、準備した写真や資料をもとにスピーチをした。福島の自然や普段の学校生活の様子を紹介しながら、震災後の被害の様子、また短期間で復旧した道路や放射線の線量計の資料を用いて、被災した厳しい現状に対しても少しずつ復興が進んでいることを話した。また様々な国際的支援に対する感謝の思いも生徒なりの言葉で伝えることができた。ホストスクールの生徒や学校関係者が真剣に耳を傾けて下さり、その後フェアウェルパーティーでもホストファミリーの前でプレゼンテーションを行い、大きな拍手と賞賛の言葉を頂いた。ホストスクールでの震災のプレゼンテーションは高校3年生のクラスで行った。ホストスクールの生徒達は、本校の生徒達自身が実際に体験したことや現在どのような復興活動を行っているのかそれぞれ個人的に質問していた。「日本人は忍耐強く逞しい。またいつでもお互いに助け合う精神があり絆が強い。」というような感想をいただいた。

また2011年の1月にオーストラリアのブリスベンでも大洪水があり、その時の写真をスクリーンで見せていただき、ホストスクールの生徒たちが体験したことも併せて発表してくれた。お互いに自然災害の恐ろしさや「普通であること」の有難さを実感していた。本校の生徒たちはプレゼンテーションの最後に小高中学生が歌った「群青」を歌った。日本語で歌ったが、スクリーンには英訳をつけて内容をわかってもらうようにした。非常に実りの多い授業であった。

現地におけるエネルギー学習については、授業の中でオーストラリアにおけるエネルギー事情に関する授業を受けた。スライドやテキストを使って水力発電・火力発電・風力発電・太陽光発電・地熱発電などの発電方法についての説明を生徒は興味深く聞き、日本の現状について考える良い機会となった。日本を支えるエネルギーはほとんど輸入に頼っており、それを確保するには様々な課題があることを知った。また、政府を中心にその解決に努力していることも理解した。さらには、家庭でも使われている生ゴミを堆肥化して再利用する装置を作る体験学習も行われた。オーストラリアでは、再生可能エネルギーやクリーンエネルギーの研究が進められているのと同時に、水など限りある資源の有効活用とゴミの減量化を考えてエコ活動が広く浸透してきていること等を知ることができた。生徒たちは改めて資源の重要性や決して無駄なことをしてはいけないことを知った。



実施後の成果について

今回の研修は生徒にとって、積極的なコミュニケーションを図るために必要なことや、異文化理解を深めることの大切さを考える好機となった。研修前に4ヶ月かけて授業中に学習したプレゼンテーションをたくさんの場面で発表することが出来た。努力することが必ず報われることや英語を使って人を感動させることができたことが自信となり、生徒の学習意欲が一層高まったことは明らかである。

今後はより一層英語学習に時間をかけ、生徒の英語力向上を図るとともに研修先の情報を多く持って行くことで、より研修を充実させることができるよう工夫していきたい。

